

● あの時何ができ、 これから何ができるのか ～東日本大震災支援活動への思い～

東日本大震災から1年をむかえようとしている今、ボランティアや社会福祉協議会、福祉施設、障害相談支援事業所など、様々な立場や職種の方と一緒に、支援活動を振り返り、これから何ができるのか考えてみませんか？

●第1部 実践リレー報告

支援活動について、それぞれの立場から、実際の活動や、受け止めた課題などを報告いただきます。

- ①障害相談支援専門員としての在宅障害者の把握
- ②専門職としての心のケアサポート
- ③社会福祉協議会による仮設住宅への支援
- ④ボランティアによる支援活動

定員
90名

参加費
500円

●第2部 分科会

3つの分科会に分かれ、「相互連携」「こころのケア」「今後の支援活動」をテーマに課題を深めます。

- ①「あの時、私たちに何ができたのか？～連携し合う一歩」
- ②「相手も自分も大切に～こころのケアから学ぶ」
- ③「いま、私たちに何ができるのか？～現在の支援活動から学ぶ」

■詳細・申込方法

次ページ以降お読みください。

■対象

東日本大震災の支援活動に関わっている、または関わった方、今後関わろうとしている方

申込締切

2月20日(月)

日時 平成24年2月25日(土)
13時～17時

会場 神奈川県社会福祉会館
第3・4研修室ほか
(横浜市神奈川区沢渡4-2)

■日程

受付	開会	実践リレー報告	休憩	分科会	閉会
----	----	---------	----	-----	----

12:30 13:00 13:10

15:00 15:20

17:00

■実践リレー報告 時間：13時10分～15時（会場：第3・第4研修室）

[テーマ]

あの時何ができ、これから何ができるのか～復興支援活動の実際

東日本大震災における支援活動には、ボランティア、福祉施設職員、障害相談支援専門員、社会福祉協議会など、様々な人たちが関わっています。自分自身の意思、派遣要請に基づくものなど活動経過は多様ですが、現実と向き合う中で、それぞれが葛藤や希望を抱えながら支援活動に取り組んだことは共通しているのではないのでしょうか。

リレー報告では、それぞれの活動や想いを知ること、今後の災害時活動の連携につなげるとともに、分科会で課題を深めていくための課題提起を行います。

[報告者]

(1) 障害相談支援専門員としての在宅障害者の把握

◇ 丹沢自律生活センター総合相談室 岡西 博一 氏（相談支援専門員）

〔5月9日から15日まで相談支援専門員として、宮城県石巻市・東松島市・女川町（石巻圏域）に、県を通じて派遣される。障害児者、家族の生活状況把握や、関係機関の連携体制づくりの後方支援に携わる。〕

(2) 社会福祉協議会による仮設住宅への支援

◇ 横浜市社協 横浜市二ツ橋第二地域ケアプラザ 山本 篤 氏

〔9月15日から30日まで、岩手県釜石市社協へ派遣される。釜石市社協の生活支援相談員と、生活支援相談員の役割整理、仮設住宅への訪問等に携わる。〕

(3) 専門職としての心のサポート

◇ 臨床心理士 森 あずさ 氏

〔臨床心理士会を通じ、被災地支援に参加。病院での医師や看護師等への支援、避難所の巡回、PTSDと思われる方の面接、保健師へのフォロー等に携わる。〕

(4) ボランティアによる支援活動

◇ かながわ東日本大震災ボランティアステーション 山内 淳 氏

〔被災者や被災地復興支援等を行うかながわ東日本大震災ボランティアステーションにて、被災地へのボランティアバスの企画運営等に携わる。〕

■分科会 時間：15時20分～17時

分科会①「あの時、私たちに何ができたのか？～連携し合う一歩」（会場：第3・4研修室）

避難所への要支援ニーズの把握、在宅障害者等への個別訪問での聞き取りなどの支援活動から、関係者とのような連携が必要だったのか、また現地との連携の難しさとは、直面した課題について、グループディスカッションで共有します。また、災害が起きた際の支援活動が、様々な分野を超えた取り組みとなるよう日常的な連携へとつなげます。

【話題提供者】 丹沢自律生活センター総合相談室 岡西 博一 氏

【コーディネーター】 特別養護老人ホームラポール藤沢 阿部 充宏 氏

（平成23年4月から(N)神奈川県介護支援専門員協会として宮城県石巻市、女川町に、県内介護支援専門員の派遣を開始。主に現地の地域包括支援センターと避難所、仮設住宅における住民へのアセスメント活動等に携わる。）

分科会②「相手も自分も大切に～こころのケアから学ぶ」（会場：第2会議室）

災害時の支援活動だけでなく、日常的な活動の中でも、たくさんの人の「こころ」に耳を傾ける機会は多いのではないのでしょうか。

そこで、分科会②では、相手だけではなく、自分の「こころ」も大切にしていくためのポイントを、今までの活動で抱えきれなかった思いを参加者のみなさまと共有しつつ、学んでいきます。

- 【内容】
- ・ 災害時の「こころのケア」に関わる活動について（事例発表）
 - ・ 相手も自分も大切にする「こころのケア」について（ワークショップ）
 - ・ グループディスカッション

- 【講師】
- ・ 臨床心理士 森 あずさ氏
 - ・ 全国自死遺族総合支援センター 杉本 脩子 氏

（東日本大震災では、ホットライン等の電話相談への対応だけでなく、被災地での分かち合いの会の立ち上げ等の支援も行っている。「かながわ自殺対策会議」委員。）

分科会③「いま、私たちに何ができるのか？～現在の支援活動から学ぶ」（会場：第1会議室）

今まで行ってきた活動をふまえ、現在、どのような活動が必要とされているのか事例報告から知り、今後の活動のヒントを得ます。

- 【内容】
- ・ 東日本大震災の復興期のボランティアについて（事例発表）
 - ・ 現在必要とされているボランティア活動について（グループディスカッション）

- 【課題提起者】
- ・ かながわ東日本大震災ボランティアステーション 山内 淳 氏
 - ・ かながわ避難者見守り隊 高松 清美 氏

（県内の避難者を訪問し、毛布等の物品の提供、被災地や社会保障に関する情報提供などを行い、細かなニーズ対応をしている。）

- ・ 横浜市社協二ツ橋第二地域ケアプラザ 山本 篤 氏

- 【コーディネーター】
- ・ くらしまちづくりネットワーク横浜 石井 大一郎 氏

■申込方法、申込み・問合せ先

【申込方法】

- 別紙「参加申込書」に、必要事項をご記入の上、平成24年2月20日(月)17時までに、FAXもしくはE-mail、郵送にて、下記担当までお送りください。
- 参加費は当日、受付にてお支払いください。
- 会場の都合上、第1希望の分科会とならない場合がございます。予めご了承ください。

【問合せ・申込先】

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会 地域福祉推進部

市町村社協支援・福祉ボランティア活動支援担当

(住所) 〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2 かながわ県民センター12階

(電話) 045-312-4815

(FAX) 045-312-6307

(メール) kvc@knsyk.jp

■会場案内図（横浜駅から徒歩15分）※車での来館はご遠慮ください。

